



論説

迎年の辭

水野鍊太郎

歲茲に改まつて昭和十年を迎へた、多事多難な一歳であるべきことは想像するに難からぬのである。吾等國民として如何に之に對處すべきか、國を有ち家を有つ者は寡を患へずして均しからざるを患ひ、貧を患へずして安からざるを患ふとの古聖の言は眞に深く味ふべき一句である。抑々政治の要諦は國民をして生活を安定せしむることに存する。即ち國民の生活にして安定せんか國家社會の難事も之を解決するの途自ら具はるに至るべきものである。而して國民生活の安定を期するに就ては其の策素より一ならざるべきも交通機關を整理して國民の活動を潤達自在ならしむることは蓋し最も緊要であり且捷徑であると考へる。

顧みるに我邦道路の施設は尙甚しく整備を缺き之が爲農村の開発振興を妨げ、都市の繁榮を阻み、

物價の平準を保ち難くして國運進展上の障碍となり而かも一旦有事の秋に際會すれば國防上の不便亦尠少なからざるの狀態なるに一般國民は道路の改良に關しては之を等閑に附するの風があつた。是故に予等同志相謀りて曩に道路改良會を創立し邦家の隆昌國民の福祉を促進する上に道路改良の最も緊要なる一政策なるを宣揚し且つ之が方策を講究して其の實現に努むる所があつた。爾來十有七星霜を経過し道路の改良橋梁の架設等著々その歩を進め交通上の成績見るべき所少からず。その克く斯の如き劃期的事業を遂行し得たことは道路改良會の貢獻鮮少なからざるを得ない。然るに創立以來同會の爲めに盡瘁努力せられた澁澤子爵及石黒五十二君堀田貢君内田嘉吉君の三副會長が物故せられ今は唯其の遺功を偲ぶに止まるは予として轉た痛惜の情に堪へざる次第である。

○

道路改良會創立當時政府に於ては十數年來の懸案であつた道路法を制定發布し道路會議を設置して道路改良の計畫を樹立し以て大正九年度以降三十年間に互り總經費貳億八千餘萬圓を投じ國道約貳千里軍事國道約七十里重要府縣道約四百里及び六大都市内の道路を改良せんことを策し道路改良會の活動と相俟つて其の道路政策の遂行に努められた。爾後三年間は豫定の計畫を實行し得たが同十二年九月の關東大震災復舊の影響を受けたる財政緊縮方針に災せられ道路事業費は

其の年割額に著しき減少を加へられ爲めに事業は遅々として進捗を見るを得ざることとなつた是れ予の深く遺憾とする所である。

○

輓近路面利用の交通機關としての自動車は急激なる發達を來たし道路の改良は遠く之に伴ふこと能はずして自動車の機能を充分に發揮し難く従つて産業の振興交通の利便等民力涵養上一大障礙を惹起するの狀態を呈した。則ち全國的道路網の更新、國道の近代改良、地方重要道路の擴築等の急務なるを痛感せざるを得なくなつた。

政府は失業救済産業振興、時局匡救等の名目を以て昭和七年度以來道路の改良を策する所があつたが國情の趨勢は之れに依つて交通上、運輸上の緩和調節を完ふすることを得ず更に進んで道路改良計畫更改の急なるを告ぐるに至つた。

政府は茲に鑑みる所があつて新に土木會議に諮りて道路改良計畫に關し更改の對策を講し國道千七百六十里、特殊國道七十里、指定府縣道四千四百二十里の改良を必要なりと認め今後貳拾箇年に亘り總經費七億七千餘萬圓を支出し第二次道路改良事業を施行せんことを決定せられた國勢の推移は道路改良上一般の躍進を企圖しなければならぬに立ち至つたことは前述する所にて明かであ

る。予は速かに其の實行を庶幾ふて已まざるものである。

○

國際的情勢は國防上軍事費に巨額の國帑を要するものあるに至つた。元來國防の事たる獨り軍事的施設のみに俟つべきでないことは勿論であるが今日の如く急迫せる事情の存するに於ては武力國防の充實を圖らざるべからざるは敢て多言を俟つまでもないことである。夫れが爲國費の著しき膨脹は亦已むを得ざるものである。加之客歲頻發した冷旱害風水害の如き天災に對して之が復舊救濟の爲め多額の國費を要するに至つたので、昭和十年度歲計上道路改良新計畫に對して果して幾許の費額を計上し得るのであるか。内務大藏兩省當局者は慎重なる考察と甚大なる努力とを以て茲に善處する所あらんことを切望する所である。